

パプリカで飯南町の農地を守りたい

和歌山から移住した

新規就農者の挑戦

田渕 裕希さん（上米島）

飯南町へ移住し、パプリカ栽培を中心に農業に取り組む田渕裕希さん。和歌山県で美容師として働く中で「自然の中で暮らしながら仕事をしたい」と考えるようになり、農業への転身を決めました。

競合の多いレタスや白菜ではなく、収益性が期待できるパプリカに着目。全国の制度を調べる中で、初期投資を抑えて就農できる飯南町のリースハウス制度に魅力を感じました。



にこやかに語られる田渕さん

来町後はパプリカ農家で2年間研修を受け、栽培技術だけでなく土地探しや経営の基礎も学びました。研修終了の頃、ちょうどリースハウスを離れる法人があり、そのハウスを引き継ぐ形で独立就農されました。

しかし、独立後は試行錯誤の連続で、「研修先と同じ方法でも、自分の圃場ではうまくいかない。水なのか肥料なのか防除なのか…、など一つずつ原因を探しました」と振り返ります。努力を重ねた結果、今年は収量約7トン、売上げ500万円の目標を達成できそうなどころまで

ました。

パプリカの栽培は11月中旬頃まで続きます。夏の暑さや品種による生育の違いなど、飯南町ならではの難しさもありますが、気候や土の状態を見極めながら工夫を重ねて「土を甘やかすすぎず、土と会話しながらやるのが大切」と話されていました。

そして今、田渕さんにはもう一つの目標があります。それは、飯南町の農地を守ることです。

高齢化や担い手不足により



人気上昇中のパプリカ



丹念に出来具合をチェック

耕作されなくなる農地が増えることが懸念される中、「売上げを伸ばすだけでなく、耕作放棄地になりそうな農地を引き受け、米や野菜を作っていききたい」そして、「将来は法人化し、従業員を雇用して規模拡大を目指しています。安定した雇用を生み出し、地域の農地を守りながら次の担い手につながる農業を実現し、飯南町に恩返しできれば」と強い思いを語られました。

田渕さんの挑戦は、これからも続きます。

今日の表紙写真



パプリカは飯南町の特産で近年人気のある農産品。美容と健康に効果が期待できるため市場でも人気の高い商品です。田渕さんの目標は「飯南町の農地を守りたい」と言われましたが、転入者の夢をカタチに出来るのは、私たちのパートナーシップではないでしょうか。共に町の明日を創っていききたいものです。

募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会議事局
0854-76-2190



議会広報常任委員会

委員長：安部 丘 副委員長：高橋 徹 委員：安部 誠也 景山 登美男 平石 玲児 岸 光研

飯南町議会議事局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867